

太虚の齡

(明治四十一年寮歌)

田中義麿君 作歌

早川直瀬君・前川徳次郎君 作曲

一

太虚の齡は知らねども
興廢うつる人の世の
文化の跡は四千年
ありし往昔を温ね来て
吾が世の狀態を眺むれば
希望榮ある前途かな

二

嘗てナイルの河水に
偉影涵せし金字塔
アテネの春も夢なれや
ローマの紅紫また散りて
欧米の空今正に
文化の花ぞ盛なる

三

偉大ならずや雪潔き
ヒマラヤ山下風薫り
四百余州に吹き入れば
聖賢雲と叢起して
深き思想は東洋の
青史不朽の誇あり

四

今東海の一孤島
文化の潮寄せ来り
東西の岸を洗ひつつ
高き響を伝ふなり
孤島にこもる国民の
使命などかは輕からん

五

既に天地の利は獲たり
人和豈それなからんや
満韓の原遺利多く
アルゼンタイン野は広し
故人の教訓聴かざるや
「ピーアンビシアスボーイズ」と

六

猛き心の往くところ
虎狼鯁鰐ものならず
テキサス鉞を入るる可く
シベリヤ斧を振ふ可し
故人の教訓膺にせよ
「ピーアンビシアスボーイズ」と